

ふくしま 再生 短信

5/29 イネ試験栽培・菅野宗夫田圃田植報告



【左段写真上から】苗を囲む一同。東大溝口研究室の研究パートナー・米国デカゴン社シヨーンさん（左）と副社長・コリンさん。再生の会事務所大家さん・米穀商の中島さん。

【中央写真】早苗饗で飯館音頭を熱唱する菅野次男さん。

【右段写真上から】茨城大西脇研究室実験田。田植機を運転する田尾さん。応援に駆けつけた金一さん。

♪飯館よいところお～♪



早苗饗「さなぶり」と読む。さのぼり（早上り）の転。田植を終えた祝い。（『広辞苑』6版より）今年の会場では大型テントも設営された（上の写真）。

2016年5月29日朝9時前から、飯館村佐須地区菅野宗夫さんの田圃で田植作業が始まった。認定NPO法人ふくしま再生の会（田尾陽一理事長、本部事務所・東京阿佐ヶ谷）が2012年以来「飯館村再生モデル事業」の一環として推進してきたイネ試験栽培が5年目を迎えた。前々日、あるいは前日から霊山センターに宿泊して準備を進めてきた会の仲間に加えて当日参加の人びとを加えて、総勢70人で田植が行われた。

田植は機械（田植機）と人間の共同作業だ。田植えの一部は、人間と自然との共生を体感するために、再生の会では手作業により全員参加で実施してきた。前日、「よみがえるオオカミ・飯館村山津見神社復元天井絵展（5/28～7/3、福島県立美術館）」開会式テ

ープカットに参加した、和歌山大の加藤久美さんとサイモン・ワーンさんも飛び入り参加し共々田圃に入った。午後1時、作業は無事終了し、宗夫ハウス前に設営された早苗饗会場へ全員が移動した。山津見神社氏子総代・菅野永徳さんは夫人同伴で「地域を守ることの大切さ」を祝辞で述べた（右の写真）。菅野宗夫家のおじいちゃん（次男さん）恒例の飯館音頭熱唱で宴の高揚は最高度に達した。



宗夫さんは「失なわれたものは多いけれど、かならず新しいものを発見できる場を創りたい」と帰村に向けた決意を表明（左の写真）。午後2時半、参加した人びとはそれぞれの希望を胸に家路についた。（文責&撮影・若林一平）